加速する広報活動

新税制リーフレット15万部、チラシ23万枚
広報実施委員を増員

先物協会

先物協会は商品先物取引への誘引を主たる目的とする広報活動を加速させている。5月末までに広報委員会の下部組織である広報実務委員会（会員各社の広報実務担当者で構成）の5名増員（計17名）を決め、現場に密着した声を吸い上げながら機動的に積極活動を展開していく。

資産運用を前面に

商品先物取引に関する新聞の啓蒙広告は従来、公正な価格の形成、ヘッジの場など先物取引の機能を中心に実施してきたが、03年になって、これを転換し、商品先物取引を魅力ある資産運用手段の1つとして読者に認識してもらうものにした。

1～3月に掲載した「夫婦の会話」シリーズのキャッチコピーは、『経済通の妻が、リターンの期待から「やってみない」と言い出した』、『わたしたちの、これから。資産運用にも新しい発想が必要かしら』、『へぇ～、ビッグな市場なんだね。これから、ますます成長しそうだし。』の3通りで、全国紙、ブロック紙に出した。

これに続くのが「負けるな」シリーズ（本紙1面参照）で、投資家への呼び掛けを一段と強めている。

税制改正に係る告知では、「税金は、ぐぐんとダウン。参加しやすさ、どんどんアップ。」というキャッチコピーの新聞広告を出すとともに、「商品先物と税金」と題するリーフレット15万部を作成した。既存の委託者、新規見込みの委託者用に営業用のツールとして会員各社に利用してもらうため先物協会が1部7円で頒布している。税制改正のチラシは23万枚、ポスターは3、000枚作成、無料配布した。

新事業として6月から12月にかけて全国各地で開催する『商品先物なっとくセミナー』については、新聞広告とともに、第1回目の東京開催について8、300枚のチラシと、ポスター500枚を配布、集客に努めている。投資家に直接働きかける初の試みだ。

さらに、日本経済新聞毎週木曜日の朝刊国際1面では、各界オピニオンリーダーによる商品先物取引に対する前向きのメッセージを発信する突き出し広告を続け、各紙の商品先物特集、企画特集に広告出稿や協賛をしている。

また、BSジャパンの番組でCMを放映している。インターネット関連では、協会ホームページのコンテンツを充実するとともに、「商品取引員検索システム」を稼働させた。加えて、わかりやすく楽しいゲームで遊びながら商品先物取引に興味を持ってもらうためのシミュレーションゲームを制作した。

このほか、産業界向け啓蒙冊子「日経フューチャーズリポート」約1万1、000部の配布、月報「先物協会ニュース」、会報誌『JCFIA』の発行、配布に力を入れている。

東京穀物市況調査会

情報のネット化を推進
今年はセミナーに力入れる

社団法人東京穀物市況調査会は1957年に設立、東京穀物商品取引所関連の広報事業を行ってきた。最近はインターネットを使った情報伝達に力を入れている。今年はコーン、大豆、コーヒーについてのセミナーを日本各地で開催、会員の要望に応えたいとしている。

既に46年の歴史

東京穀物市況調査会は東穀取、東穀取仲買人協会、時事通信の3者が主体となり、設立された。既に46年の歴史を持つ。

主たる目的は「穀物の生産地及び消費地並びに取引所における公正な取引を助長し、価格の安定に寄与し、流通の円滑化に資するための調査研究、広報活動を行う」こと。

初代理事長は近藤了馬氏。86年から三井物産常務だった児玉一彌氏が就任、今年4月からは東穀取常務理事だった柳澤逸司氏が理事長となった。

58年に「月刊穀物」、95年に季刊誌「TAF」などを発行、主にパンフレットでの広報に力を注いできたが、時代の流れに合わせて、01年11月からは主な情報はネットで公開することにした。

テレホンサービスも

主たる事業は市況情報サービス。東穀取の相場情報サービス（テレホンサービス）を実施、昨年度は122万回を超える利用があった。

また、東穀取の日報の発行も受託、各種の資料なども作成、配布している。

最近のネットでの海外穀物情報の提供は、海外の最新の動きを翻訳して、1日に4～5本、同調査会のホームページに載せている。昨年度は647本のニュースを掲載。毎日平均700余のアクセスがあった。ちなみに、同調査会のホームページ（www.tmr.or.jp）は東穀取のホームページにリンクしている。

東穀協会と協力

今年度、特に力を入れるのがセミナー。穀物、コーヒーに関係した講演会、パネルディスカッションを全国で開く。これまでは年2回、東京で世界の穀物の作付け、収穫についての講演会を開いてきたが、東穀協会と協力して、今年度は6月までに7回開催、場所も東京、関西、名古屋、福岡、札幌と大幅に広げた。

また、最近のエンロン事件をきっかけとする商法改正や証券取引法改正などについて独自のセミナーを6月から定期的に開催する予定。

いずれも会員企業が対象だが、「会員のお客様でも結構」なので、利用価値は高そうだ。

事業費は年間7、000万円弱。その大半を東穀取が負担。会員は特別会員が1、普通会員が81。東穀取の受託会員はほとんどが入っている。年会費は2万円。

◆◇新社長◇◆

東京ゼネラルは猪股氏

飯田社長は会長に

東京ゼネラルでは5月1日付で専務取締役の猪股圭次氏が代表取締役社長に昇格した。飯田克己社長は代表取締役会長に就任した。

猪股　圭次（いのまた　けいじ）

54年3月21日生まれ。77年3月、中央大学法学部卒業、同年4月、ゼネラル貿易入社（87年、5月、3社合併で東京ゼネラルに商号変更）88年5月、東京ゼネラル取締役。02年6月、代表取締役専務。

洸陽フューチャーズは小楠氏

兵頭社長は副会長に

洸陽フューチャーズは5月22日の取締役会で、小楠敏専務が社長に昇格する人事を内定した。6月27日開催予定の株主総会および総会終了後の取締役会で正式に決定する。兵頭通裕社長は代表権のない副会長になる。

小楠　敏（おぐす　さとし）

79年大東文化大経卒、西友商事入社。92年洸陽フューチャーズ入社。96年取締役、99年6月専務。東京都出身、49歳。

北辰物産は剱持氏

松尾社長は監査役に

北辰物産は5月23日、剱持宏昭副社長を社長に昇格する人事を内定した。松尾碩男社長は監査役に就任。6月20日に開く株主総会後の取締役会で正式に決める。

剱持　宏昭（けんもち　ひろあき）

79年央立株式会社入社、93年ダイワフューチャーズ（現ひまわりシーエックス）取締役。02年北辰物産に入り、同年6月副社長。44歳北海道出身。